

マンション管理人

A: マンション管理人, B: マダム風の女

A よーし。今日は戦うぞ。(チャイムを鳴らす)

B はい。(ドアを開けて)あら管理人さん、こんにちは。

A どうも。お忙しいところすみません。実はちょっとお話が...

B (後方に)静かにしなさいプチメタボ!...失礼。それで?

A (お腹を気にしていたが)あ、あのですね、ペットは規則で禁止されてますからご協力お願いしますって、先日も言いましたよね?

B ええ、確かにそんなこともありましたわね。でも当家にペットなんて居なくてよ。

A 今、吠えてましたよね、プチメタボ君?どんな名前をつけても犬はペット扱いですからね。ご存知でしょうけど。

B プチメタボは息子の名前です。当家に犬なんておりませんわ。カピバラならおりますけど。

A カ、カピバラ?

B ええ。

A もしかしてプチメタボ君って、カピバラ?

B そうですけど、なにか?

A となりますと、お宅の息子さんはカピバラなわけですね。

B (明らかにハツとして)はめたわね!

A はい?

A いいわ。うちは全員カピバラなんですよ!

A なんだそりゃ!

B 私も夫も息子もカピバラなんですよ。だから飼ってるのではなく、住んでますの。お分かり?

A いやいやいや。その理屈で規則が守られてることになっちゃったら、もはや世界の秩序が崩壊するでしょ。

B カピバラにだって居住権はあるでしょ?

A (我慢も限界に達して)ねえよ、そんなもん! 動物園にもねえわ!

B 賃貸契約書にそんな事書いてないじゃないの！

A カピバラの居住はお断りなんて書いてある契約書、むしろ見てみたいわ！

B そこまで言うなら教えてあげるわ！このマンションの居住者はほとんどがカピバラなのよ！知らないのはあなただけなのよ！

A 強制退去になりますよ！

B おどすのね？上等だわ。訴えてやる！

A いいですよ、訴え返しますから！

B ああ、嫌だ！口の減らない爺さん！こうなったらこのマンションごとアマゾンの沼に沈めてやるわ！

A おどしのスケールでか過ぎだろ！もういいわ！